

テレナーシング分科会

1. 分科会の目的

看護職が行うテレナーシングの実践・教育・研究を確立し、普及するための調査研究、および情報発信と交流等を行う。

2. 令和 6（2024）年度活動実績と成果

（1）学会関連

- ①Triple Burdens of Diseases: Nurse-Led Game Changer to Optimize the Outcomes of Care 国際会議(2025 年 1 月 7-9 日)がタイ・バンコクで開催され、テレナーシングとヘルスアウトカム、医療政策へのインパクト等について亀井が演題発表を行った。
- ②第 34 回日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会シンポジウム(2024 年 11 月 16 日)において、呼吸器疾患在宅療養者へのテレナーシング実践、および成果等についてシンポジストとして亀井が登壇した
- ③第 28 回日本遠隔医療学会学術大会(11 月 9 日)において、パネルディスカッション「デジタルヘルスの未来に貢献する看護ケアイノベーション」を当分科会が企画し、亀井、森山が座長を担当し、加澤、原田ほか 2 名がパネリストとして登壇し、看護ケアイノベーションについて討議した。また、加澤が学術大会事務局として企画運営に携わった。
- ④第 83 回日本公衆衛生学会総会メインシンポジウム 4(10 月 31 日)において、日本遠隔医療学会共催による遠隔医療が拓く地域医療に亀井がシンポジストとして登壇した。
- ⑤第 29 回日本在宅ケア学会学術集会パネルディスカッション(8 月 25 日)において、「テレヘルスで実現する新しい在宅ケア」において、テレヘルスの現状と未来について亀井がパネリストとして登壇した。
- ⑥国際会議 MASCC/AFSOS/ISOO2024 Annual Meeting がフランス・リールで開催され、シンポジウム(6 月 29 日)において、がん在宅療養者へのテレナーシングとその成果等について原田がシンポジストとして登壇し、討議した。
- ⑦第 25 回日本赤十字看護学会学術集会（7 月 21 日）において、テレナーシングとアウトカム、実践知普及について講演した。
- ⑧第 44 回日本看護科学学会学術集会シンポジウム（12 月 8 日）において、地域住民の健康課題に対応するテレナーシング実践について加澤がシンポジストとして登壇した。

（2）出版物関連

- ①看護情報学 2025 年版(医歯薬出版)において、看護における情報システムの活用例の章に、テレナーシングについて執筆した(亀井)。
- ②病院, 83(10)特集「遠隔支援の新時代」(医学書院)において、「テレナーシングの重要性と人財育成における課題」を執筆した(亀井)
- ③訪問看護ステーションニュース, 180 号(全国訪問看護事業協会)において、「テレナーシングとは」が掲載された(亀井)

3. 令和 7（2025）年度活動計画

- ①第 29 回 JTТА 学術大会において、テレナーシング関連のシンポジウムなどの機会を検討する。
- ②その他、テレナーシングの国内看護実践の普及のため、教育活動、情報提供、国内外の学会等においての発信を推進する。